

Q 1ヶ月間で、どちらのスマホをどれだけ生産販売しますか。

条件	A	B
1台あたり販売単価	25,000	40,000
1台あたり製造にかかる費用（原価）		
材料費	10,000	18,000
労働力	2,000	4,000
電気代など	2,000	3,000



ということは、1台あたりの利益は????

11,000 15,000

1台あたり工場で製造にかかる時間
市場での人気具合・1ヶ月でどれだけ売れるか（需要量）

2時間 3時間
300台 400台

ということは、需要量全部作るには何時間かかるか????

600時間 1,200時間

1ヶ月間工場がスマホを製造できる機械稼働時間

1,500時間

ということは、Aを300台、Bを400台、1ヶ月に製造できるか????

できる・できない

ということは・・・?????

メモ

貢献利益の多い方を売る。
 A $25,000 - 14,000 = 11,000$ B $40,000 - 25,000 = 15,000$
 $11,000 \div 2 \text{時間} = 5,500 / \text{時間}$ $15,000 \div 3 \text{時間} = 5,000 / \text{時間}$
 よって、Aをたくさん作る方がよい という意思決定をさせる。

でも生産要素の希少性で、この工場は1500時間しか稼働しないので
 Aを優先させて需要量だけ製造すると、
 $300 \text{台} \times 2 \text{時間} = 600 \text{時間}$
 $1500 \text{時間} - 600 \text{時間} = 900 \text{時間}$
 $900 \text{時間} \div 3 \text{時間} = 300 \text{台}$
 となり Aは300台、Bは300台製造することができる。

これが理論的に正しい考え方であるが、そのような意思決定をしない場合
 この回答と比べていくら貢献利益が少ないかなど
 かみ砕いて説明する。

自分の言葉でまとめてみよう

生産要素 「土地」「資本」「労働力」のこと。商品を生産するために必要な要素

希少性 消費者の欲しがる全ての商品を生産するために十分な生産要素がないことを
 生産要素の”希少性”という

トレード・オフ 選べる選択肢が2つ以上あり、その選択肢を同時に選ぶことができない場合、どちらか一方を選択すれば、もう一方をあきらめなければならない状態

機会費用 トレード・オフによってあきらめなければならないものの価値（選択しなかった方の
 選択肢を選んだときに得られるであろう価値）のこと